

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 尾倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

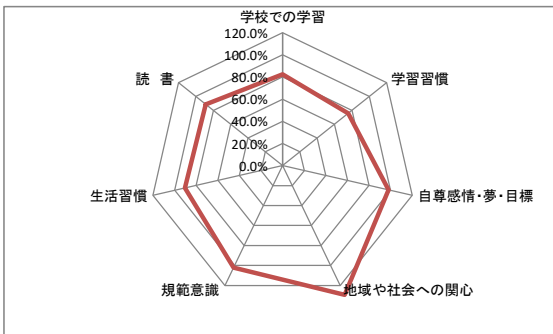
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比べると、無回答率が低く、読解力が高いが、書く力が低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	短歌を一首選んで、それについて感じたこと・考えたことを書く問題。	
	努力が必要な問題	論の展開にふさわしい語句や文の使い方に気をつけて自分の考えが読み手に分かりやすく伝えるように書く問題。 手紙の宛名を正しく書く問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	数と式の正答率が高く、関数の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	平行移動の意味を理解している問題や連立方程式の問題。	
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、数学的に説明する問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	聞くこと・読むことは、全国平均を上回っている。 書くこと・話すことは、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	問9の空欄補充問題で、基礎・基本の知識を理解している生徒が多い。	
	努力が必要な問題	全体の内容から、大切な部分を理解し、まとめたり選択したり、文の構成を読み取る問題ができていない。	

4. 本校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



本校の質問紙調査の結果分析	
・家で自分で計画を立てて勉強する生徒は、全国平均を下回っている。定期考査の取組を計画的にさせたい。	
・家庭での学習時間が、全国平均を下回っている。尾倉ノートや課題プリントを徹底させたい。	
・将来の夢や希望をもっている生徒は、全国を下回っている。夢を実現させるために、職業講話などで具体的な目標をもたせたい。	
・毎日、朝食を食べているについて、全国平均を若干下回っている。学校通信などで、朝食の重要性を啓発していきたい。	
・地域や社会への関心が、全国平均を大きく上回っている。	

5. 本校の調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・家庭学習を計画的に行うように、尾倉ノートや課題プリントを徹底させる。
- ・授業で、自分で考え意欲的に取り組むように、グループ討議など授業改善を推進する。
- ・「書く」分野の正答率が低い。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、書く活動を位置付ける。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学習方法をまとめた「学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- ・尾倉ノートや課題プリントなどで、家庭学習習慣や基礎学力のより一層の向上を図る。
- ・学校便り、学校HPで、学力・体力向上ステップアップについて知らせる。